

眼

特別展

Special Exhibition "Ganpuku":
A Feast for the Eyes - The Seikado's Tea Utensil Treasures
with Masterpieces of Former Daimyō Collections

福

大名家旧蔵、
静嘉堂茶道具の粹

心も一服、
いたしましょう。



重要美術品
大名物
《唐物茄子茶入 利休物相(木葉猿茄子)》
南宋～元時代(13～14c.)
◆千利休所持、徳川家光一仙台藩主伊達家伝来
Tea caddy, *Nasu* (eggplant) type,
known as "Rikyū mosso" (or "Konohazaru-nasu"), *Karamono* (Chinese) ware
Southern Song to Yuan dynasty, 13-14c.



重要美術品
《御所丸茶碗 黒刷毛》部分
朝鮮時代(17c.)
Tea bowl, *Gosho-maru* type,
known as "Kuro-hake (black brush)", Korea, Joseon dynasty, 17c.

2024 9/10(火)→11/4(月)・振休

会期中、作品の一部に展示替えがございます。

- 【開館時間】 午前10時～午後5時 ※入館は閉館の30分前まで
※土曜日は午後6時閉館、第4水曜日 9月25日、10月23日は午後8時閉館
- 【休館日】 月曜日、9月17日(火)、9月24日(火)、10月15日(火)
※ただし9月16日(月)祝・9月23日(月)振休・10月14日(月)祝・11月4日(月)振休は開館
◆10月28日(月)はトークフリーデーで開館
- 【会場】 静嘉堂@丸の内(明治生命館1階)
- 【入館料】 一般1,500円 大高生1,000円 中学生以下無料
障がい者手帳をお持ちの方 700円(同伴者1名無料)
◆お着物にてご来館のお客様は一般入館料を200円割引させていただきます。
ただし、他の割引との併用はできません。
- 【主催】 静嘉堂文庫美術館(公益財団法人 静嘉堂)



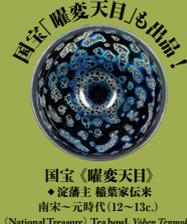
大名物 ◆淀藩主 稲葉家伝来
《唐物瓢箪茶入 稲葉瓢箪》
南宋～元時代(13～14c.)
Tea caddy, *Hyotan* (gourd) type,
known as "Inaba-Hyotan", *Karamono* (Chinese) ware
Southern Song to Yuan dynasty, 13-14c.

静嘉堂@丸の内

SEIKADO BUNKO ART MUSEUM
〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治生命館1階
TEL 050-5541-8600 (ハローダイヤル)
<https://www.seikado.or.jp>



▲予約はこちらから
日時指定
予約優先
※当日券もあります



国家「羅斐天目」も出品!
国宝(羅斐天目)
◆淀藩主 稲葉家伝来
南宋～元時代(12～13c.)
(National Treasure) Tea bowl, *Yoban Tennoku*

Gallery 1

眼福を



重要文化財
《油滴天目》
Tea bowl with black glaze. *Yuteki* ("oil spot" pattern) *Tenmoku* type
南宋時代(12~13c.)

伝来：…藤田家…岩崎小彌太…静嘉堂
朝顔のような形の、大振りの天目茶碗。黒軸上に、銀色に輝く大粒の「油滴斑」がひっきりと浮き現れた、見事な「建盞」（中国・建窯産の茶碗）。



重要文化財
《井戸茶碗 越後》
Tea bowl, *Ido* type, known as "Echigo"
朝鮮時代(16c.)

伝来：…越後殿…薩摩屋素村…川并某…京都六角三井家…岩崎家…静嘉堂
朝鮮半島で焼造された「高麗茶碗」のうち、本作は「大井戸」と呼ばれるタイプ。枇杷色となった茶碗の表面には、細かく貫入(ヒビ)が生じ、ろくろ目が柔らかく廻る。



重要文化財
《黒織部茶碗 銘うたたね》
Tea bowl, black *Oribe* ware, named "Utatane" (doze), Mino ware
桃山時代(17c.)

伝来：…岩崎家…静嘉堂
茶人・古田織部の好みを受けたとされる織部焼。本作は黒軸をかけた外した意に網代風の鉄絵文様を描く黒織部。段を作った口造り、半筒形で三方に垂めた造形も見所。

静嘉堂所蔵の茶道具は、三菱第2代社長・岩崎彌之助(1851~1908)とその嗣子で第4代社長の岩崎小彌太(1879~1945)の父子二代によって、明治17年(1884)頃から昭和20年(1945)までに蒐集されたものです。現在約1,400件にのぼる茶道具コレクションは、質量ともにすぐれたものとして知られています。

彌之助の茶道具蒐集は刀剣蒐集に次いで早い時期から行われ、明治17年には大名物の唐物茶入、付藻茄子と松本茄子を、明治21年(1888)には仙台藩主伊達家旧蔵の茶道具を一括で求めるなど、好機をのがさない購入によってその骨子が形成されてゆきました。大正期以降は、広い視野で東洋古美術品の拡充を担った嗣子・小彌太が、茶道具の中に大切に伝えられた中国陶磁の名品をとらえ、コレクションに加えてゆきました。小彌太自身も晩年、表千家の12代惺斎宗匠と久田宗也無適斎宗匠に師事し、茶の湯に親しみ、理解を深めました。

本展は静嘉堂文庫美術館が展示ギャラリーを丸の内に移転して初めての、静嘉堂としても8年ぶりの茶道具展となります。将軍家、大名家旧蔵の由緒ある茶入や名碗をはじめ、著名な茶人たちの眼にかなった、格別の名品が一堂に会します。この秋、「眼福」のひとつときをお過ごし頂ければ幸いです。

Gallery 2

憧れの茶入

大名物、中興名物の賞玩



大名物
《唐物茄子茶入 松本茄子(紹鴨茄子)》(写真左)
Left side: Tea caddy, *Nasu* (eggplant) type, known as "Matsumoto-nasu", or *Jō-ō-nasu*, *Karamono* (Chinese) ware
南宋~元時代(13~14c.)

伝来：…山名氏…松本珠華…天王寺屋宗伯(引揚)…武野紹鴨(一)(武野宗瓦)…今井宗久…織田信長…今井宗久…豊田秀吉…豊田秀頼(大坂城で罹災、藤重修復)…徳川家康…藤重藤蔭…藤重家…今村長賢…岩崎彌之助(彌太郎…久彌)…小彌太…静嘉堂
松本珠華の所持の後、武野紹鴨が所持し「紹鴨茄子」とも称された著名な茶入。付藻茄子と同様、信長・秀吉へと伝えられた後、大坂夏の陣(1615)で罹災。家康の命により後継・藤重父子によって修理され蘇った。



重要美術品 大名物
《唐物肩衝茶入 銘山井(樋口肩衝)》
Tea caddy, *Katatsuki* (angular shoulder) type, named "Yamanoi" or "Hinokuchi Katatsuki", *Karamono* (Chinese) ware
南宋~元時代(13~14c.)

伝来：樋口石見守知秀…徳川家康…伊達政宗…徳川家光…伊達忠宗(…仙台藩主伊達家)…白山彦五郎(炭屋)…岩崎彌之助…小彌太…静嘉堂
くっきりと肩が衝く茶入。黒軸がかかり、胴部には縦斜め方向の篋目がつけられている。徳川将軍家と仙台藩主伊達家との紐帯を示すかのような伝来。

中興名物
《瀬戸芋子茶入(古瀬戸) 銘雨箱》
Tea caddy, *Imonoko* (small taro) type, named "Amayatori" (shelter from the rain), Seto ware (Furu-Seto kiln)
室町~桃山時代(16c.)

伝来：…小堀遠州…木屋庄八…船橋長左衛門…京三井家…戸田家…岩崎彌之助…小彌太…静嘉堂
「綺麗さび」の美意識を茶の湯にもたらした小堀遠州。出雲藩主・松平不昧が「中興名物」の名で分類した。本茶入には「雨箱」の和歌銘がつけられ、次第(盃、仕覆、牙蓋等の付属品)も美しく添う。



眼福

特別展
Special Exhibition "Ganpuku":
A Feast for the Eyes - The Seikado's Tea Utensil Treasures with Masterpieces of Former Dainō Collections

大名家旧蔵、静嘉堂茶道具の粹

Gallery 3

静嘉堂茶道具の粹

大名家の名宝、眼福の逸品



重要文化財
《虚堂智愚墨跡 景西至節偈》
Calligraphy by Xu-tang Zhi-yu: Verse known as "Jing-you zhi-jie"
南宋時代 景定2年(1261)

伝来：…明の宗嗣原主…仙台藩主伊達家…白山彦五郎(炭屋)…岩崎彌之助…小彌太…静嘉堂
南宋時代の高僧・虚堂智愚は、日本臨済宗の祖として仰がれ、その墨跡はとりわけ珍重された。仙台藩主伊達家伝来品。



重要文化財
《白磁蓮花文輪花水指》
Water jar with carved lotus design, white porcelain
北宋~金時代(11~12c.)

伝来：…加賀藩主前田家…中宮家…岩崎彌之助…小彌太…静嘉堂
薄い側面を瓜形に押し、口縁に浅く切り込みを入れて輪花形にした大鉢。内外に流麗な彫りで蓮花文を表す。我が国への将来も珍しい、中国北方、定窯の優品。加賀前田家伝来品。



《交趾四方香合》
Kogō, incense container, with fish design, *Kōchi* ware of green glaze
明時代(17c.)

伝来：姫路藩主酒井家…岩崎家…静嘉堂
類品を見ない、緑一色の四角い交趾香合で、わずかに盛り上がった蓋甲に鉄絵で魚を描いている。姫路藩主酒井宗淳(忠以)の旧蔵品。



《数茶入》野々村仁清
Set of 18 tea caddies. By Nonomura Ninsei.
江戸時代(17c.)

伝来：…岩崎家…静嘉堂
京焼の名工・仁清が、室町将軍家の座敷飾り書「君台観左右帳記」に掲載される、唐物茶入18種の図を実際の造形で表したセット。(本図は18口のうち9口)



《猿曳棚(本歌)》地袋板絵：伝 狩野元信
Shelf for tea utensils with sliding doors with painting of "Saru-biki" (monkey showman)
Attributed to Kanō Motonobu
室町時代(16c.)

伝来：武野紹鴨…古田織部…清水道閑…清水道代々…梁瀬昌春…岩崎彌之助…小彌太…静嘉堂
地袋をもつこの棚は「紹鴨棚」と呼ばれる形式のもの。古田織部と小堀遠州に学んだ京都の茶人・清水道閑が、伊達家の茶道頭となって仙台へ下る際、織部からはこの猿曳の棚が個別に贈られた。清水家では幾度か狩野派絵師による写しが制作されている。本展では館蔵の猿曳棚4点(うち1点は橋本雅邦筆・初公開)を一堂に展示。

見所3
狩野派絵師が継承、猿曳棚「4点を公開！」

Gallery 4

名宝を伝えゆく茶の湯



大名物
《唐物瓢箪茶入 稲葉瓢箪》
Tea caddy, *Hyōtan* (gourd) type, known as "Inaba-Hyōtan", *Karamono* (Chinese) ware
南宋~元時代(13~14c.)

伝来：…稲葉美濃守正則(…淀藩主稲葉家)…岩崎彌之助…小彌太…静嘉堂
江戸初期に譜代大名・稲葉美濃守正則の所持であった唐物瓢箪茶入。上段は彫らみをもたず、二段目の胴部で豊かに張り出す。数か所に釉の抜け文様が見られるなど、小さいながら景色に富む。



国宝
《曜変天目(稲葉天目)》
Tea Bowl, *Yōben Tenmoku*, known as "Inaba Tenmoku"
南宋時代(12~13c.)

伝来：…徳川将軍家…徳川家光…春日野…稲葉美濃守正則(…淀藩主稲葉家)…小野家(光景…一郎)…岩崎小彌太…静嘉堂
漆黒の釉に大小の斑紋がうかび、その周囲を藍から青を中心とした光彩が輝く特徴をもつ。南宋時代の建窯で偶然焼成されたとみられる。今日現存する完品は世界に3碗のみ。室町将軍家で、唐物茶碗のうち最高位とされた。



重要美術品
《御所丸茶碗 黒刷毛》
Tea bowl, *Gashō-maru* type, known as "Kuro-hake" (black brush)
朝鮮時代(17c.)

伝来：…岩崎家…静嘉堂
御所丸茶碗は、朝鮮半島との公式な交易船・御所丸で運ばれたと伝えられ、作為の強い重厚な作りが特徴がある。本作は鉄軸で装飾した「黒刷毛」で、これを岩崎小彌太が写生し俳句を添えた色紙(複製)が残されている。

《竹平水指・竹水指》宗傳(2代)
Fresh water container made by bamboo with black lacquer
By Sōden II
昭和初期(20c.)

伝来：…岩崎小彌太…静嘉堂



竹の内側に塗りを施して作られた水指。各々の共箱蓋裏に「鹿尾島田ノ浦の竹を以て之を作る」と不答庵(岩崎小彌太)の書付がある。田ノ浦は島津家から岩崎家に嫁いだ孝子夫人出生地の裏山という。



《青漆小旅箆箱》
即中斎(表千家13代)在判 宗哲(11代) 同箱書付
Small tea utensil cabinet, *tabi-dansu* type, decolated with green and vermilion lacquer
By Nakamura Sōtetsu XI, Signed by Sokuchū-sai, 13th tea master of Omote-Senke
昭和20年(1945)

伝来：…岩崎小彌太…静嘉堂
終戦の年の秋、小彌太の茶の湯の師・久田無適斎宗匠が岩崎家本邸の焼失を知り、「日々手帳にお茶を召し上げられるよう、「新しく清く美しいものを」と選った小型の旅箆箱。初公開。

関連イベント

● 講演会 明治安田 ヴィレージ

※申込方法等は当館HPにてお知らせします。

からもの 唐物茶道具の世界 おふめいぶつ —大名物茶入から天目まで

[講師] 竹内順一氏 (東京藝術大学名誉教授)

[日時] 2024年10月5日(土) 14:00~15:30

※この日の美術館閉館時刻は18:00です。

[会場] 明治安田ホール丸の内
(明治安田生命ビル低層棟 4F・IHMY PLAZAホール)

※聴講は無料ですが当日の入館券が必要です。

● 担当学芸員のスライドトーク 明治安田 ヴィレージ

[日時] 9月21日(土)、10月12日(土)、10月26日(土)

いずれも11:00~14:30~

[会場] 明治安田ギャラリー (明治安田生命ビル低層棟1F)

[定員] 30名

※11:00、14:30いずれも当日美術館受付でお申し込みください。

各々10:00、13:00より整理券を配布します(先着順)。

トークの所要時間は30分程度の予定です。

※聴講は無料ですが当日の入館券が必要です。

次回展覧会

平安文学、いとをかし

—国宝「源氏物語関屋瀞標図屏風」と王朝美のあゆみ

The Elegance of Heian Literature:

The National Treasure Tale of Genji Screens and the Evolution of Court Esthetics

2024/11/16(土)~2025/1/13(月祝)

On view November 16, 2024 - January 13, 2025

王朝文化が花開いた平安時代には、物語や日記、漢詩や和歌など、様々なジャンルの文学作品が誕生しました。平安文学は、日本美術のなかでも重要なテーマとしてあり続け、時代を超えて数多くの作品に影響を与えています。本展では、国宝・俵屋宗達「源氏物語関屋瀞標図屏風」をはじめ、平安文学を題材とした絵画や工芸品、書の名品から、みなさまを「いとをかし」な平安文学の世界にご案内します。



国宝 俵屋宗達《源氏物語関屋瀞標図屏風》のうち「瀞標図」 江戸時代 寛永8年(1631)



《青磁鱗耳花入(砵花入)》部分
南宋時代(13c.)

◆千利休所持、仙台藩主伊達家伝来
Flower vase with handles in shape of
shachi (imaginary monstrous fish),
celadon
Southern Song dynasty, 13c.

眼

特別展

Special Exhibition "Ganpuku":

A Feast for the Eyes - The Seikado's Tea Utensil Treasures
with Masterpieces of Former Daimyō Collections

福

大名家旧蔵、 静嘉堂茶道具の粹



予約はこちらから
日時指定
予約優先

※当日券もあります

予約サイトでの来館日時指定予約にご協力をお願いします。

●館内でも当日券をご購入いただけます。ただし日時指定予約をされた方が優先となりますので、予約に空き枠が無い場合には、当日ご入場いただけない場合がございます。

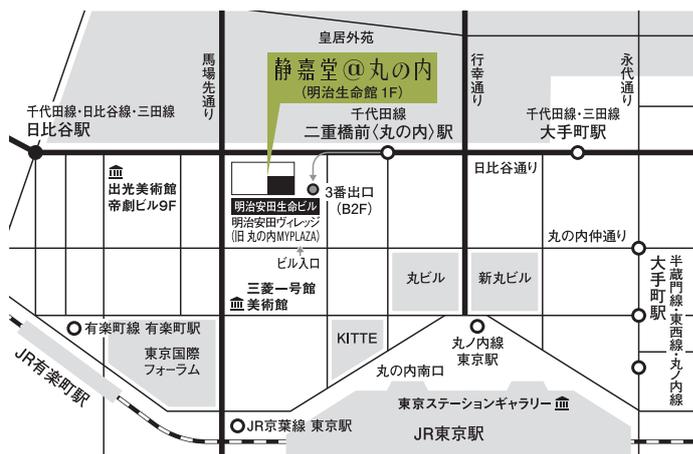
●混雑状況によって、入場までお待ちいただく場合もございます。
●招待券/招待状をお持ちの方や中学生以下の方は予約不要です。



ナビゲーター

小早川秀樹 さん (MC)

ご利用料金 1名様1台600円(税込)



- [アクセス] ※当館に専用駐車場・駐輪場はございません
- 地下鉄千代田線「二重橋前(丸の内)駅」3番出口直結 明治生命館1階
 - JR東京駅 丸の内南口より徒歩5分
 - JR有楽町駅 国際フォーラム口より徒歩5分
 - 大手町・丸の内・有楽町地区を結ぶ無料巡回バス「Marunouchi Shuttle (丸の内シャトル)」で「明治安田ヴィレージ・静嘉堂」下車すぐ



静嘉堂@丸の内

SEIKADO BUNKO ART MUSEUM

〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1 明治生命館1階

TEL 050-5541-8600 (ハローダイヤル) <https://www.seikado.or.jp>

✕ @seikadomuseum

📷 seikado_bunko_artmuseum